

上田仮説サークルニュース		9月例会	2015. 09号
編集責任	遠藤 裕		発行2015. 10. 24
〒 383-0041	中野市岩船 426-3	サンガーデン中野 B-G	TEL 0269-23-2847 携帯 090-1406-9115
	メール	endo-h@cronos.ocn.ne.jp	勤務先 長野工業高校 TEL 026-227-8555

9月26日(土) 上田中央公民館 3F第1・第2学習室
午後 3:00 ~ 9:00



参加者数 10名 資料総ページ 61 ペ

<参加者> 梶孝司さん, 片岡さん,
池田みち子さん, 増田伸夫さん, 北村秀夫さん, 北村知子さん,
坂口富雄さん, 柳沢克央さん, 高見沢一男さん, 遠藤裕

はじめに 9月例会の参加者は10名。神奈川の梶さん, 友人の片岡さん参加。

増田さんから5本, 知子さんから1本の発表がありました。

増田さんは, <今月のお話>シリーズで, 板倉さんの講演2本, 牧さんの講演1本, 渡辺さんの講演1本。そして, 前回発表されたものを改訂した「<イスラム教とアラブ>ミニ問題集」16ページ)。参加者で予想をしながら楽しみました。イスラムのことやアラブの国々が話題になることが多いだけに, 基礎知識を身に付けるのにとっても参考になる内容です。増田さんにはさらに研究を続けていただき, 是非授業書に。

知子さんからは, 「大鹿村で見られる中央構造線を巡る旅」の旅行記。ただ観光を楽しむだけではなく, 「日本列島の生い立ち」を学ぶための旅行でもあったようです。

今回は, 神奈川の梶孝司さんとそのご友人の片岡さんが参加。梶さんは, <ドレミの誕生>の体験講座をしてくれました。ご友人の片岡さんは<ピタゴラス音律・表>を用意してくれ楽器(ハーモニカピアノ?)を用いて補足をしてくれました。知子さん音楽の造詣が深く, 自分で持ってきた楽器を紹介。パソコン画面をプロジェクターで投影し, それを見て予想をしながらの授業で, ストローでつくった笛の音を実際に確認しながら, 楽しく体験することができました。遠いところからご参加いただき本当にありがとうございました。



終了後, いつもの「夢庵」で夕食。梶さんは, 上田に一泊するというので, 夕食をご一緒することができました。<ドレミの誕生>は, まだ第2部, 3部の構想もあるようです。

1. 発表資料

① サークルニュース 8月例会 遠藤 裕 (8ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 7月例会 遠藤 裕 (8ペ)
- ② 牧衷：授業書には<ヘソ>がある ー教師の基礎学力ー 増田伸夫さん (8ペ)
- ③ 牧衷：映画のリズムと授業のリズム 増田伸夫さん (8ペ)
ー緊張と解放(弛緩)ー
- ④ 板倉：日本の教育の歴史は、大学教育と小学校教育とから始まった 増田伸夫さん (4ペ)
ー理科教育変遷史(1) (近代日本教育史概観)ー
- ⑤ 板倉：科学教育重要視と日本人教授体制堅持 増田伸夫さん (8ペ)
ー理科教育変遷史(2) (大学教育)ー
- ⑥ <イスラム教とアラブ>問題集(基礎知識) 増田伸夫さん (12ペ)
- ⑦ Tolerance(寛容)の考え方の成立と発展 渡辺規夫さん (15ペ)
- ⑧ まちかど科学クラブだより4 渡辺規夫さん (4ペ)
- ⑨ 夏休み子ども向け夏期講座のまとめ 渡辺規夫さん (7ペ)

2. 科学映画(DVD) 池田みち子さん

○蛙と電池 ・送電のしくみ ○光の屈折と影・磁石 ○光電管 ・海岸の波

② 板倉：「科学的世界観」の教育から

「素直な人間をつくる」への大転換 増田伸夫さん (8ペ)

ー理科教育変遷史(3) (小学校教育/理科教育)ー

上田仮説出版『科学史研究と科学教育 板倉聖宣演説記録集』「理科教育の変遷史」より。(1977/9/16 第9回 長野県理科教育研究集会 保養センター「あおき」にて テープ起こし・編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田)

<板倉：今月のお話3>用に増田さんが再編集した文章の紹介。

<増田さんのあとがき>より

板倉さんはある会で「仮説実験授業は右か左かわからないじゃない。民教連にも入らないし、板倉は国立教育研究所だし。(笑) 過激派すぎたり、穏健派すぎたり、わかんないよ。要するに危険思想だな。<危険思想になりたい>と思ってるんだからしょうがないよ」(上田仮説出版・中野本社刊『今月のお話2』板倉1：「平和教育の基礎理論としての仮説実験授業」より)と話していましたが、仮説実験授業はまさしく「危険思想」

なんです。

「科学的世界観をつくる」ことを目的に理想主義的に始まった明治始めの小学校教育は、自由民権思想の抑圧とともに崩れていき、ついには「素直な人間をつくる」ことが理科教育の目的となってしまったというお話で、とても納得できるお話でした。「今もその伝統が消えているとは言えない」ので、理科教育において「観察の大切さ」が強調され博物教育のような断片的な細かな知識が教科書からなかなか消えないでいるのでしよう。

『たのしい授業の思想』（仮説社）には、「文部省は「学制」「仰せ出され書」制定の8年後の1880年に、（自由民権運動の勃興に対処するため）公然とその教育方針の大転換をはじめ、（1880年に教科書開申制度を発足させ、多数の教科書を使用禁止にし）1890年の「教育勅語」の發布をへて、その翌年の「小学校教則大綱」でその方針の大転換をはば完結した、とあってよいのです」とあります。

<今なお日本の歴史、あるいはもしかすると世界の歴史で未だかつてなかったほど科学教育を重要視した内容>であった明治5年（1872）の「小学教則」から、たったの二十年足らずでこれほどに変わってしまった文部省の教育方針。この教育方針の大転換は、日本の教育関係者にとって最も基本的な基礎知識として、銘記すべきことがらと言えるでしょう。

（<仮説実験授業はまさしく「危険思想」><「科学的世界観をつくる」ことを目的に理想主義的に始まった明治始めの小学校教育><教育方針の大転換>など、理科教育に携わる者としては、知っておいた方がよい内容です。 エドワ）

③ 板倉：落第しない大学性をつくる 増田伸夫さん（8ペ）

—理科教育変遷史(4)（中等教育①）—

上田仮説出版『科学史研究と科学教育 板倉聖宣演説記録集』「理科教育の変遷史」より。（1977/9/16 第9回 長野県理科教育研究集会 保養センター「あおき」にて テープ起こし・編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田）

<板倉：今月のお話4>用に増田さんが再編集した文章の紹介。

<増田さんのあとがき>より

明治政府は植民地化の危険を排除するため、日本の大学レベルを外国より落とすわけにはいかなかった。そのため、明治はじめの大学ではレベルに達しなければ何回で落第させていたという。しかし、設備の観点から定員だけは厳格だったが、大学入試が始まってから高校卒は全部入れるのが建前で、絶対評価による資格試験であったという。だから、中等教育の役割は大学の予備教育で、「大学で落第しない大学生をつく

る」ことが中等教育の最大の目標であったというお話です。つまり、「日本の教育の歴史は、大学教育と小学校教育からはじまったのであり、あとの学校はその脇役に過ぎなかった」ということなんですね。（増田）

（増田さんのあとがきに「日本の教育の歴史は、大学教育と小学校教育からはじまったのであり、あとの学校はその脇役に過ぎなかった」とあります。その影響が今も残っているというのが実感です。エンドウ）

④ 牧：エリート of 民主主義 増田伸夫さん（4 ペ）

－責任を持たせればシャンとする－

上田仮説出版『牧衷連続講座記録集1 仮説実験授業の思想と方法を問い直す』『エリート of 民主主義』より。（1988/3/18 青木村田沢温泉富士屋ホテルにて）テープ起こし
・編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田

＜牧：今月のお話3＞用に増田さんが再編集した文章の紹介。

＜増田さんのあとがき＞より

旧制高校生のように扱われたら、そりゃあ自立が促されちゃいますね。だから、子どもたちもできるだけ大人扱いしてあげたいなと思う（『牧 今月のお話』『お話8：覚悟を決めれば自由になれる』もご参照ください）。

牧さんは質問すれば丁寧に答えてくれる。そして牧さんは講演を聴いている人に対しても、旧制高校生に対するように紳士淑女として扱ってくれて、しかもいつも高級な話をしてくれるなあと思うのです。

（旧制高校は、「ほんとに＜エリート of 民主主義＞をやってくれたところなんですよ。」と牧さんは言っています。そして、「責任がものすごくはっきりしている。つまり『自由にやれ。そのかわり、その結果についてはブツブツ言うな』」と。このような経験から、「覚悟を決めれば自由になれる」という名言を生んだんだろうなと思います。 エンドウ）

⑤ <イスラム教とアラブ>ミニ問題集 増田伸夫さん（16 ペ）

イスラム教やアラブについて理解を深めるための基礎知識を身に付けるための問題集。増田さんはまえがきで次のように述べています。

イスラム教とかアラブの国がよくわからない。「自分には基礎知識がないのだな」とつくづく思う。そこで、自分が理解するために<イスラム教徒とアラブ>

に関するミニ問題集をつくってみました。皆さんも気楽におつきあいください。

なお、奇数ページが問題で、偶数ページがその答になっています。

全体は以下の6つの項目に分かれており、問題は全部で21題。

1. イスラム教徒とその国々
2. イスラム教の2大宗派
3. IS（イスラム国）とイランとイラク
4. アフガニスタンとウサマ・ビン・ラディン
5. イラク戦争とアメリカの占領
6. 「アラブの春」、シリア、IS（イスラム国）

<典拠・参考文献> <データ> <あとがき> <軍事力による問題解決は困難>という実験結果

増田さんの書かれた<あとがき>の最初の部分を紹介します。

「イスラム教やアラブ諸国」のことがわからない

新聞を読んでも、テレビの報道を見ても、「イスラム教やアラブ諸国」のことがよくわからない。なにかとてもゴチャゴチャしていて、スッキリしない。その原因は、「イスラム教やアラブ諸国」を考えるうえでの基礎知識が私に著しく欠如しているからだと思えた。そこで、とりあえず私にとっての基礎知識は何なのか（何がわかったら理解できそうなのか）を考えながら、（手っ取り早い方法ですが）調べてみたら、このような問題形式のものができあがったというわけです。

調べてみてわかったことは、まずムスリム＝中東ではなく（今は中東以外に多くのムスリムがいる）、ムスリム＝アラブ人でもない（アラブ人はムスリムの約2割）ということです。アラビア半島で誕生したイスラム教は、今では中央アジア～東南アジア、北アフリカ、そして難民流入によりヨーロッパにも拡がりを見せています。そして、現在世界人口の約2割を占めるイスラム教徒は2100年にはキリスト教徒を抜いて世界最大の宗教勢力になると予測されています。この15億人ものムスリムの人たちとどうつきあうのか（味方にするのか、敵に回すのか）は、これからの日本にとっても重要な課題となるでしょう。

なぜわかりにくいのか

ところで、なぜ私が「イスラム教やアラブ諸国」のことがこんなにもゴチャゴチャしていると感じたのか。調べていくうちに、それは「イスラム教やアラブ諸国」の歴史の中で、

- ①イスラム教のスニ派とシーア派による宗派对立
- ②アラブ人とクルド人（やペルシャ人、トルコ人）などの民族対立
- ③米ソ（露）の対立
- ④アラブ諸国（アラブ人）とイスラエル（ユダヤ人）の対立
- ⑤貧富の格差による対立（反政府運動やIS誕生の要因？）

⑥ 宗教（イスラム教とユダヤ教とキリスト教）の対立

などが複雑に絡み合っているの、わかりづらいのではないかと思うようになりました。もしそうだとしたらわかりにくいのも無理ないですし、私以外にも「イスラム教やアラブ諸国」のことがわからずに困っている人がいるのではないかと思ってきました。大急ぎで作ってみた問題集ですが、とりあえず作ってみたことで私の頭の中には「イスラム教やアラブ諸国」の歴史についてのストーリーができたので（間違いや大きな勘違いがたくさんあるかもしれませんが）ある程度スッキリできました。

（前回の8月例会で初めてこの増田さんの作られた問題集が紹介されました。前回、参加者からいろいろなアドバイスがあり、今回さらにパワーアップした問題集となっていると思います。増田さんは「イスラム教やアラブ諸国」のことがわかりにくい原因を①～⑥にまとめています。これをしっかり整理し理解することが大切なようです。さらにパワーアップして、この研究を是非授業書につなげてもらいたいです。 エドワ）

⑥ 渡辺：エリート主義の生徒会活動 増田伸夫さん（8ペ）

－板倉式発想法と運動論(2)－

2015/6/6 瀬戸市文化センターにて 講演テーマ②「板倉式発想法にもとづき発想して研究する」より テープ起こし・編集：増田伸夫

＜渡辺：今月のお話4＞用に増田さんが再編集した文章の紹介。

＜増田さんのあとがき＞より

「午後1時35分開始」にしろ、「くうまく＞やってもらいたい」という話にしろ、じつに板倉さんらしい発想ですね。そして「エリート主義の生徒会活動」という話は、＜「民主的」にやろうとしてうまくいかない生徒会活動／クラス運営＞で悩んでいる人たちにとって重要な提案だと思いました。どんな運動でも、みんなが賛成してともに運動したくなるような「いい提案」ができるかどうかが決定的なのでしょう。

（生徒会のような大きな組織の顧問になったとき、どのように指導していったらいいか悩む人は多いと思います。渡辺さんが板倉式発想法を応用し生徒会活動を成功させた例は、多くの先生方に大変参考になりますね。＜デール・カーネギーの『人を動かす』の手法＞のお話も、組織を運営していくときのコツが紹介されていて、なるほどと思います。 エドワ）

⑦ 大鹿村で見られる中央構造線を巡る旅 北村知子さん（5ペ）

お盆休み（8.13～14）に大鹿村へ行ったときの旅行記。

「運転手は言わずと知れた我が相方。私はナビゲーター」と始まり、蓼科、長谷村、分杭峠、大鹿村、原村でのエピソードが書かれています。中央構造線の路頭の見学、結晶片岩の観察、学芸員さんの説明、上村（下栗の里）での景色と大変楽しい旅だったようです。「中央構造線とフォッサマグナの関係など日本列島の生い立ちが少しわかったような気がします」と知子さんは書いています。

1. 旅の始まりは寄り道
2. 中央構造線とは
3. 中央構造線路頭
4. 中央構造線博物館
5. おまけ

(私 (エンドウ) の田舎は、長谷村の手前の高遠町です。長谷中の路頭や分杭峠には何回か行ったことがあります。分杭峠手前のドーナツ屋さんには少し有名だったんですね。分杭峠のパワースポットは少しあやしい気がします。大鹿村へ抜けるコースは、峠道で大変ですが、景色はとてもいいです。このコースをたどって「日本列島の生い立ち」を学ぶのはとても楽しい経験だったことと思います。 エンドウ)

2. 体験講座 梶孝司さん 午後 5:00 ~ 7:00

<ドレミの誕生>

誰も知らなかった、ドレミファソラシドの秘密。数学、物理、音楽の融合。ピタゴラス最大の功績の1つ、ピタゴラス音律。西洋音楽は2500年前のギリシャから始まった。音楽における「もしげん」、これを体験すると音楽観が一変する。音楽教育に及ぼす影響は計り知れない授業書。(梶さんより)



あとがき

10月例会の案内を出そうとしている頃、渡辺さんのホームページで、牧さんが亡くなったことを知りました。今年に入って2月には横浜サークル主催の牧さんの講演をお聞きしました。「夏の全国研究会 東京大会」(7月27日～29日)では、会場で牧さんのお話をお聞きすることができ、簡単な夕食も一緒にすることができました。また、8月例会では、渡辺さんが山形での牧さんの講演をテープ起こししてくれた資料を読んだばかりです。このところ増田さんは<今月のお話>で牧さんの講演記録を読みやすく編集し紹介してくれていました。上田サークルは、牧さんから学んだことがとても多く、サークルの財産になっています。まだまだいろんなお話をお聞きしたかったという思いで一杯です。心からご冥福をお祈りいたします。

今回は神奈川の梶孝司さんが体験講座<ドレミの誕生>をしてくれました。参加者で大いに楽しみながら体験することができました。音階についての基本的なところがわかってきたような気がします。神奈川からきていただき本当にありがとうございました。

職場では、9月から進路係になり、よくわからないままに忙しい毎日が過ぎていきます。

(エンタウ)

★ 今後の予定 ★

11月28日(土)

12月19日(土)

1月23日(土)